

勝利の歓喜 描いて歓喜



●シルバー賞を受賞した綿引海渡さん。水戸啓明高校の受賞作品

今夏の第97回全国高校野球選手権大会のポスターに使う原画を募集した「高校野球ポスター甲子園」（朝日新聞社主催、日本高校野球連盟後援）で、水戸啓明高校1年の綿引海渡さんの作品が、応募作品727点の中からシルバー賞に選ばれた。県内からは唯一の受賞。「とてもうれしい。ポスターを見た人に喜びの気持ち伝われば」と話している。

ポスター甲子園

綿引さんは高校で美術部に所属。アクリル絵の具を使って試合終了直後に投手と捕手が抱き合う喜びのシーンを10日間ほどで描き上げた。

得意なのは緻密で繊細な絵だ。受賞作品のように、動きがあるものを描くのに苦戦したが、筆の持ち方から変えてみた。筆のタッチを多くし、画用紙の上で色を作ることで全体的にぼかして描くことができ、躍動感につながったという。

中学まではサッカー一筋だった。中学時代に勝ったのは数えられるほど。だからこそ勝利の喜びはひとおだった。

水戸啓明高1年・綿引海渡さん

シルバー賞 県内唯一の受賞

顧問の橋川祐一教諭(54)が、題材になりそうな新聞の切り抜き写真の束を用意した。目に入ったのはバッテリーが抱き合うシーンだった。「競技は違っても気持ちは同じ。自分を感じていた思いも込めて描きました」

昨夏の茨城大会、野球部の応援で初めて生で野球を観戦した。勝利の瞬間にも立ち会えた。「純粹に、かっこいい。見ているだけなのに胸が高鳴りました」。そういう思いも込めたポスターになった。「納得がいく絵だったので、何となく受賞する気がしていたんです」と笑った。

(角詠之)